

## 都市化に伴う農地の生活保障的機能の「揺らぎ」についての再考

—中国広東省珠江デルタ地帯の事例研究—

岩手県立大学 劉文静

### 1 目的

中国農村では都市化と工業化の進展に伴い、農地の利活用のありかたが再編されている。集団所有農地は工業用地や不動産開発用地へ改変される例も多い。また、賃貸などを中心とする農地集積化と流動化およびそれに伴う農地利活用といった、いわば農業経営体の変容も見られる。このような背景から、今までの農地の価値、とくに「養老」（老後の生活保障）として捉えられてきた面にも大きく揺らぎが出ている。本報告では、農地との歴史的関連性から中国農村の「養老」の経済的要因を見出すことを目指し、現時点の農地流動化の把握および農地の生活保障的機能の変容について考察する。

### 2 方法

本研究では質的調査法を用いて農家個別訪問から得たデータを中心に、統計資料や一部文献の使用も併用している。本報告では広東省博羅県（珠江デルタ地帯に位置）の園州鎮田頭村を調査対象地とする。園州鎮は工業用地への転用による農業用地の縮小、および多くの農家（とくに50代以下）の地元工場での賃金労働者への転換が特徴的である。行政村田頭村は5つの自然村より構成されており、内3つの自然村において35戸の農家訪問による聞き取り調査の実施が可能であった。

### 3 結果

現地調査から以下の知見を得た。(1) 農地の減少と農業の衰退。工業団地造成による農地転用が増加し、農地が半分ほど減少した。水稻栽培の衰退が著しく農業全体が総体的に衰退している。(2) 農業経営体の変化。零細規模かつ個別農家による農業経営がほぼ消滅し、残されているのは大規模農家や農業協同組織など100畝以上超える農業経営体である。とくに極少数の地元出身者と多数の遠距離移動による「外来戸」耕作者へと転換されている。(3) 農村社会の都市化。農地の工業用地への転用により村集団の経済が潤っている。また、鎮の住宅団地に移住する若者世帯および戸籍移出者は2割程度であり、鎮の近郊地帯として都市化が確実に進んでいると読み取れる。(4) 土地の社会保障的機能の変容。土地の価値、土地の利活用の価値および農地の生活保障的機能は、世代間や農家間で異なる意味を持つことがわかった。(5) 伝統的「養老」意識の残存。土地や公的年金制度の整備も期待している一方、宗族意識の強い広東省では老後息子に頼るという意識を強く持っていることが特徴的であった。

### 4 結論

農地を賃貸している農家が多く、地域外とくに省外からの借地農業経営者は徐々に増加しており、工業が発達した地帯の農家は農業を重視しなくなったといえる。また、地代・雇用費は年々上昇し農業経営は難しくなっているが、農地の請負権者にとっては有利に働く面もある。農外就農が難しい50代以上の農民にとっては農業経営をやめた状況とはいえ、農地賃貸を通じて生活保障の経済的機能を見出しているとも捉えられる。若い世帯では農業経営に関して意識的に無関心である傾向が強い。このことから農地の生活保障的機能が若い世帯にとっては大きく変化したといえよう。だが、農民身分の若い世帯の賃金労働者の多くは、まだ不安定な非正規雇用である。その意味では、農業生産者の公的年金保険制度の整備と改善は中国にとって依然として大きな課題である。

農村土地を切口に農家の生産と生活の変容、特に土地の持つ生活保障的機能の変容は、地域社会の変動を考察する重要な手がかりになり、今後とも追究していくべきであろう。